

【編集委員会特別企画】ランチタイム・セミナー
第3回 研究論文・研究ノート・実践研究報告の書き方講座
——先行研究を検討するとはどういうことか(仮)——

関西教育学会研究紀要編集委員会
委員長 杉本 均 話題提供 石井英真

『関西教育学会研究紀要』編集委員会では、「研究内容としては意義が感じられるが、研究論文としての体裁が整っていない」文章（「投稿論文」）がよく問題になります。編集委員会としては、なるべく多くの論文を掲載したいという思いが強いため、内容以前の段階で掲載不可とせざるを得ないことを大変残念に思っています。

このような文章が投稿される原因として以下のことが考えられます。

- (A) 研究論文としての体裁（書き方）に十分な注意が払われていない（もしくは、知らない）。
- (B) 研究論文・研究ノート・実践研究報告の区分の意図が、投稿者に伝わっていない。
- (C) 研究方法論や具体的な研究方法の選択に十分な注意が払われていない（もしくは、知らない）。

そこで、(A) (B) の問題に対応すべく、「第1回 研究論文・研究ノート・実践研究報告の書き方講座」では、編集委員会より以下のことをお伝えする時間を設けました。

- (1) 研究論文としての体裁（学会の研究紀要に掲載される論文としての意義）
- (2) 研究論文・研究ノート・実践研究報告の違いと共通点
- (3) 「落とすための査読」ではなく「なるべく多くの良い論文を掲載するための査読」であり、「より良い論文にするための査読コメント」であること
- (4) 論文投稿、査読コメントへの対応等に関するルールやマナー
- (5) より多くの投稿を望んでいること

そして、第2回目の講座では、(C) の問題に焦点を当て、下記の二つを伝える場を持ちました。

- (6) 教育学の研究手法論（文献研究とフィールド研究）
- (7) フィールド研究の具体的方法（アンケート、インタビュー、事例研究、参与観察、開発、効果測定、アクション・リサーチ）

第3回目の講座については、学術的研究を進める上で重要かつ困難な作業でもある、問題意識から研究上の問いの設定に至る過程について、特に先行研究の検討という作業の意味や方法論について扱いたいと思います。せっかく論文を投稿したのに不掲載となり悩んでいる方（もしくは、納得がいかない方）、学校等での教育実践をまとめてみたいがどう書いたら紀要に掲載されるかわからず困っている方等々に集まってもらえたらと思います。昼食のお持ち込みは可能です。

<時間・会場>

11月19日 12:00-13:00 佛教大学

<プログラム>

司会 杉本 均（委員長、佛教大学）

1. 「問題意識から研究上の問いへ—先行研究を検討するとはどういうことか—(仮)」
石井英真（『研究紀要』編集委員、京都大学）
2. 編集委員からのコメント
3. 質疑応答